

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」福岡空港校		
○保護者評価実施期間	2025年11月17日 ～ 2025年12月20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年11月17日 ～ 2025年12月20日		
○従業者評価有効回答数	(対象数)	9	(回答数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様一人ひとりの発達特性やニーズに応じた個別療育	お子様との関わりや保護者様から得られた情報をもとに、職員間で会議を行い、一人ひとりの発達特性やニーズに合わせた個別支援計画を作成し、それに沿った支援を提供しています。半年毎にモニタリングと面談を実施し、計画の見直し等を行っています。	お子様の課題だけではなく強みや好きなものにも着目し、楽しみながら取り組める療育を目指しています。
2	家族支援等の充実	療育後にお子様の様子や支援内容をお伝えし、保護者様からご家庭や園での様子をお聞きする時間を10分程設けています。必要に応じて支援見学や面談・LINE・お電話でのご相談にも対応しています。	支援見学の機会の拡充や相談会の実施を検討し、保護者様の悩みにお答えする体制をより充実させていきたいと考えています。
3	理学療法士や作業療法士の配置	他事業所に配置されている言語聴覚士と連携し、理学療法士や作業療法士、5年以上経験のある指導員、社会福祉士などによる多角的な視点で療育を行っています。	引き続き、他事業所とも連携を図りながら、より多角的・専門的な視点での療育を目指していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースの狭さ	狭いスペースをパーティション等で区切って活動しているため、聴覚的情報を遮断することの難しさや運動のしづらさがあります。	音が気になりやすいお子様には優先的に個室を利用していたくなどして、より集中しやすい学習環境を提供していきます。運動については、必要に応じて公園に出るなどしてスペースを確保していきます。
2	設備の古さ	床やジョイントマット、机、椅子等に傷みや汚れがあり、定期的な清掃だけでは改善が難しい状況となっています。	買い替えができる設備については、新しい物を購入し、設置していきます。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」福岡空港校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 35

回収数 22

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	9	1	1	人数に対して施設全体が狭く感じる。 バーションで区切られているだけなので、特性のある子どもが落ち着いて療育を受けることは難しいと感じる。 運動するには少し狭いと思います。	ご不便をおかけして申し訳ございません。 音刺激を受けやすいお子様は個室を利用し、より集中しやすい環境で活動していきます。 全身運動のスペースを確保できていないため、必要に応じて公園などで運動を行っています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	21	0	0	1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	5	0	0	バリアフリー化はされていない。 わかりやすい環境ではないと感じられる。	施設の構造上、完全なバリアフリー化は難しいですが、学習室に番号や動物を掲示するなどして、お子様に分かりやすい環境設定をしていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19	1	2	0	床や壁、ジョイントマット、テーブルや椅子などの傷みや汚れが気になる。 カビのような匂いを感じるので、エアコンクリーニングを定期的にやっていただけると安心する。 定期的にマットレスを交換して欲しい。	買い替えることができる備品を購入し、新しい物を設置していきます。 また、適宜エアコンクリーニングを実施していきます。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	2	0	0	コンディションや得意不得意などに合わせていただいています。 専門家が常駐していない。 本人の好きな物を使って療育出来ていると思う。	今後もお子様一人ひとりの発達特性や得意・不得意に応じた支援を提供していきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21	1	0	0		
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	1	0	0	その時の本人の気持ちに沿って、臨機応変に対応していただいていると思う。	引き続き、保護者様との面談やアセスメントに基づいて、お子様に合わせた個別支援計画を作成していきます。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	2	0	0		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21	1	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	1	1	1	本人のモチベーションに応じて療育をしていただいていると思う。	引き続き、お子様の強みや興味のある物を取り入れて、楽しみながら受けられる療育を目指していきます。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	11	2	6	3	他園との交流はプライバシーや個人情報の観点からなくてよい。	今後は、個人情報に留意しながら、地域の子どもたちも参加できるイベントを実施していきます。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19	1	1	1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19	1	0	2		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20	1	0	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21	1	0	0	困っていることなど相談すると、アドバイスをしてもらえる。	引き続き、お子様や保護者様に寄り添った支援を提供していきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	3	3	8		年1回程度、保護者会を開催しています。今後は、よりご家族をサポートできるイベントの実施を検討していきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	2	0	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20	1	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21	1	0	0		月2回のブログにて、活動やイベントの様子などを発信しています。 事業所評価の結果については、ホームページに掲載しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	1	0	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20	0	0	2	参加したことなし。	月1回程度、事業所内にて防災訓練を実施しています。利用予定表への記載やブログなどで内容を発信していますので、よろしければご覧ください。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	1	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12	1	0	9	支援中に怪我をしたことがないので、分らない。	事業所内で怪我等が起こった場合は、LINE等で速やかに保護者様へ連絡し、その後の経過を確認するように心がけています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21	1	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	20	2	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	2	0	0	ほぼ、満足に近い方です。 言語聴覚士が異動になったので、言語聴覚士の補充を希望します。 職員の入れ替わりが激しい。	職員の異動が多く、ご迷惑をおかけしています。 今後はお子様や保護者様との信頼関係を構築できるよう、丁寧な情報共有や支援を行っていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」福岡空港校			公表日		2026 年 2 月 14 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		机上課題や狭い空間でも実施できる運動には対応しています。	ボール遊びなどの全身運動のスペースが確保できていないため、必要に応じて公園などで運動を行っています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		パーテーションで仕切って個別支援をしているため、余計な視覚情報を減らすことはできています。	音を遮断できていないため、音刺激を受けやすいお子様は優先的に個室を利用し、より集中しやすい環境で活動していきます。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○	清掃をごまめに実施していますが、設備の傷みや汚れが目立っている状況です。	買い替えできる備品を購入し、新しい物を設置していきます。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			クールダウンの場所が確保できていないため、お子様に合わせてテントなどを用いています。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価は実施していません。	今後も第三者による外部評価を実施する予定はありません。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたツールを用いたアセスメントを年一回実施し、日々の支援の中で、言語聴覚士や理学療法士による評価を実施しています。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○					

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援終了時に翌営業日以降の支援内容の確認を合わせて実施しています。役割分担については、適宜ミーティングで確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)		○		今後は必要に応じて、児童発達支援センターとの連携を図っていきます。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		今後は、地域の子どもたちも参加できるイベントの開催を検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		今後は、保護者様の相談会や研修会の実施を検討していきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		年1回程度、保護者会を実施しています。	今後は、保護者様同士で交流できる機会を設けていきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		今後は、地域住民も参加できるイベントの開催を検討していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーについて、契約時のフェイスシートやイベント時に確認しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全確保に関する取り組みについて、ブログやエントランスへの掲示により周知しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事故やヒヤリハットが起こった際には、終礼時に共有を行い、再発しないように注意しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			